



小さな魚たちが、大きな一匹になるとき

小さな赤い魚の群れは、広い海を泳ぐのが怖くてたまりません。大きな魚に、いつ食べられてしまうか分からないからです。そこへやってきた一匹の黒い魚が、こう呼びかけます。「みんなが集まって、一匹の大きな魚のふりをして泳ごう」と。

一匹一匹はとても小さく、弱い存在です。でも、集まって形を作り、それぞれの場所を守りながら一緒に泳ぐことで、大きな魚も怖くなくなります。

介護も、これとよく似ていると私たちは考えています。

一人で抱えると、不安になる

介護する家族も、介護を受けるご本人も、それを支える事業所や企業の担当者も、一人だけで向き合おうとすると、大きな不安に押しつぶされそうになります。「この判断で合っているのだろうか」「誰にも相談できない」——そんな孤独感が、介護を一層苦しいものにしてしまいます。

でも、情報を共有し、意見を交わす。それを一度きりではなく、**何度も何度も**重ねていく。そうすることで、少しずつ関係が結ばれ、安心して進んでいける「**群れ**」ができていきます。BanSow(伴走)という社名は、まさにこの「一緒に泳ぐ」という考え方から生まれました。

この視点を、それぞれの立場から見てみたいと思います。

介護する家族の方へ

最初の面談で「困っていることは特にない」とおっしゃる方は少なくありません。でも実際には、ご自身でも気づいていない負担を、一人で抱え込んでいることがよくあります。

一度の相談ですべてが解決しなくても構いません。毎月顔を合わせ、情報を共有し、意見を交わす。それを繰り返す中で、少しずつ本音を話していただけるようになります。一匹だけで泳ぐのではなく、私たちと一緒に**群れをつくっていく**——そのつもりで、遠慮なく話してみてください。

介護を受けるご本人へ

ケアプランは一度作ったら固定されるものではありません。体調や気持ちの変化に合わせて、何度も話し合いながら見直していくものです。

「前に伝えたことと、今感じていることが違う」——そう思ったときは、遠慮なく伝えてください。系列やしがらみに縛られず、本当に必要なサービスだけを自由に組み合わせる。その**繰り返しの対話**こそが、ご本人らしい暮らしを守る群れをつくっていきます。

介護サービス事業所の方へ

多職種連携がうまくいくかどうか、実は「一回の申し送り」ではなく「関わり続ける関係」の中で決まってきます。初回の担当者会議だけでは見えてこない利用者・ご家族の変化も、毎月のモニタリングを重ねる中でケアマネジャーが把握し、必要なタイミングで各事業所にフィードバックしていくことができます。

一つの事業所だけで抱え込むのではなく、**顔の見える関係を何度も積み重ねる**こと。それが、困難ケースにも揺らがらない、大きな一匹の魚のようなチームケアをつくります。特定の系列に属さない独立型だからこそ、しがらみのないフラットな立場でその輪をつなぐことができます。

企業の担当者の方へ

以前、ある建設会社の人事部長から「社員が祖母の介護で遅刻が増えている」というご相談をいただいたことがあります。ネットで調べれば介護休業制度の説明は出てきますが、その社員の方が本当に必要としていたのは、制度の説明ではなく、ケアプランそのものの見直しでした。

介護離職の最大の原因は、情報不足です。継続的に関わる中で、ご本人も気づいていなかった調整の余地を見つけ、遅刻せずに介護と仕事を両立できる新しいケアプランを一緒につくることができました。

社員の方が会社に相談できないのには、いくつもの理由があります。「相談しても解決しないだろう」「相談する時間がない」「会社に知られたくない」「昇格に影響するのでは」——こうした心理的なハードルは、一度きりの窓口対応では乗り越えられません。一人で抱え込ませないための「**群れ**」を、会社の中にどうつくるか。私たちは、その仕組みづくりのパートナーとして力になりたいと考えています。

一匹では小さくて不安でも、**何度も情報を交わし、関係を結んでいけば**、安心して泳げる群れになれる。
それが、**BanSow(伴走)**が大切にしている考え方です。